

サイエンスコミュニケーション活動に対する科学者の意識 ーサイエンスカフェのゲストを調査対象としてー

田島 佑介

近年、国内で市民と科学者の双方向のコミュニケーションであるサイエンスコミュニケーション活動が活発に行われるようになってきた。科学技術の発展により科学の複雑化が進み、科学技術が社会に与える影響が大きくなってきた現代社会において、科学技術が望ましい方向で発展していくためには、科学技術や科学者の活動が市民に正しく理解・支持されることが必要不可欠である。

そんな中、科学技術の現場に最も近い立場にいる科学者だからこそ行えるサイエンスコミュニケーション活動、また市民へ与える影響の大きい科学技術を生み出す立場にいる科学者が責任をもって行わなくてはならないサイエンスコミュニケーション活動があるだろう。だがサイエンスコミュニケーション活動が広く行われるようになったとはいえ、SC活動は一般に科学者の業績評価と直接的に結びつくものではない。それでもサイエンスコミュニケーション活動を行う意義があると考え、そのような環境の中で科学者が「参加してよかった」と思える SC 活動の共通点を明らかにすることを本研究の目的とする

そこで本研究ではサイエンスコミュニケーション活動の 1 つであるサイエンスカフェに着目し、そのゲストスピーカーにサイエンスコミュニケーション活動についての調査を行った。

2010年4月から2012年3月の間に行われたサイエンスカフェのゲストスピーカーを対象とする。質問紙はフェイスシート、参加したサイエンスカフェについての質問、サイエンスコミュニケーションへの考え方についての質問からなる三部構成とし、参加したサイエンスカフェについての質問ではサイエンスカフェの規模、開催時期や主催者を、サイエンスコミュニケーションへの考え方についての質問ではサイエンスカフェ出演以前のサイエンスコミュニケーション活動についての意識、サイエンスカフェ出演後のサイエンスコミュニケーション活動についての意識を調査した。

調査の結果、回答者のほとんどが出演以前はサイエンスコミュニケーション活動に肯定的であり出演後も肯定的な考えをもつ事がわかった。しかし、回答数は少ないながらも出演以前はサイエンスコミュニケーション活動に否定的だったが出演後肯定的な考えをもったというグループには共通点があり、すべてが出演前後で自身の考え・研究に変化があったと述べており、GSの意識の変化がSC活動に対して良い印象を与えている可能性がある。今後機会があればさらに母集団を広げて調査をすることで有意義な結果が得られるのではないかと考えられる。

(指導教員 三波千穂美)